

令和4年度生野区区政会議 第2回全体会

1 開催日時

令和4年12月2日（火） 19時00分～20時55分

2 開催場所

生野区役所6階大会議室

3 出席者

（区政会議委員）18名

三木委員、船方委員、宮崎委員、前田委員、加藤委員、藪本委員、古本委員、北口（英）委員、柴田委員、大藤委員、北口（充）委員、川口委員、塚本委員、廣川委員、川中委員、山納委員、森本委員、橋野委員、

（大阪市議会議員）4名

木下議員、武議員、原口議員、山田議員

（その他関係者）3名

多田様、和田様、伊藤様

（生野区役所）17名

筋原生野区長、櫻井副区長、上原こども未来担当部長（教育委員会事務局兼務）、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、上田企画総務課長代理、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、松村安心まちづくり担当課長、堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、三根生こども未来担当課長（教育委員会事務局兼務）、竹中地域まちづくり課地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理、宮城窓口サービス課長、山崎保険年金担当課長、谷上保健福祉課長、清水地域福祉推進担当課長、松藤生活支援担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）生野区将来ビジョン等について

資料1 生野区将来ビジョン2023-2026（素案）

資料2 生野区地域福祉ビジョン2023-2026（素案）

資料3 令和5年度生野区運営方針（素案）

（2）各部会報告について

参考資料1 令和4年度第2回各部会からの主なご意見等（要約）と区の考え方、対応

（3）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和4年度第2回生野区区政会議全体会を始めさせていただきます。

本日は、ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。私、事務局の生野区役所企画総務課杉本と申します。着座にて失礼します。よろしくお願いいたします。

初めに、本日の出席状況、傍聴及び会議運営、会議録の作成についてご報告させていただきます。

本日の会議は、委員定数30名に対しまして17名のご出席がありまして、定数の2分の1以上ということで、有効に成立してございます。また、本日の傍聴者は1名となっております。

続きまして、条例第8条第1項に基づく市議員の皆様のご出席について、50音順でご報告申し上げます。

木下誠議員です。

○木下議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

武直樹議員です。

○武議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

原口悠介議員です。

○原口議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

山田正和議員です。

○山田議員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

同じく、条例第8条第2項に基づく関係者といたしまして、歴代の議長等を務められました皆様のご出席についてご報告申し上げます。

多田龍弘様です。

○多田様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

和田友祐様です。

○和田様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

伊藤廣美様です。

○伊藤様

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

以上でございます。

なお、区政会議に関する本市の規則によりまして、出席された方のお名前、発言内容等が公開されます。後日、事務局のほうで会議録を作成いたしまして、区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影について、ご了承のほどお願い申し上げます。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

まず、趣旨でございますが、本日の会議では、この間、部会でもお示ししてまいりました生野区将来ビジョン及び生野区地域福祉ビジョン、そして令和5年度の生野区運営方針、いずれも素案となっておりますが、これらにつきまして、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えてございます。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。

左肩に当日用とございます、令和4年度第2回生野区区政会議全体会の次第をご覧ください。本日の会議資料を記載してございます。資料がおそろいでない場合は、お手を挙げていただければお持ちいたします。

まず、事前に送付しております資料についてとなりますが、資料1としまして、生野区将来ビジョン（素案）というA4縦の資料がございます。続きまして、資料2としまして、生野区地域福祉ビジョン（素案）というこちらもA4縦の資料がございます。そして資料3としまして、令和5年度生野区運営方針（素案）というA4横の資料がございます。

続きまして、本日配付の資料がいくつかございます。まず、参考資料1といたしまして、令和4年度第2回各部会からの主なご意見等（要約）と区の考え方、対応でございます。こちらは、先日行われました3つの部会における委員の皆様からの主なご意見を抜粋させていただきまして、併せて、それぞれ区の考え方も追記してございます。また、資料番号はございませんが、先ほど申し上げました事前送付の資料2、地域福祉ビジョンの15ページになりますが、一部誤植がございましたので、差し替え分を1枚配布してございます。続きまして、折り畳みのオンデマンドバスのガイドブックがございますので、またご覧ください。

最後に、区政会議委員の皆様へのアンケート用紙も置かせていただいております。全体会と部会の2種類ということになってございます。本日お帰りの際に、そのまま机の上に置いていただければ回収いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。資料は以上となっております。

それでは、これからの進行は、三木議長のほうによりしくお願いしたいと思います。

○三木議長

議長の三木です。

ただいまから、令和4年度第2回区政会議を開催します。

区政会議は、区民が主役として地域運営に当たるために、地域の課題解決のためどう取り組むべきか、また課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する趣旨の会議となります。よって、委員の皆様の個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って意見を交換し、議論を深めるという姿勢で積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催に当たり筋原区長からご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。

本日は、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、また昨日から急速に寒くなりましたが、お寒い中、生野区の区政会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様方におかれましては、先日から開催の各部会へご参加をいただきまして、いずれの部会も非常に熱心な意見交換をいただきました。皆様方の生野区に対する本当に熱い思いを感じることができました。ありがとうございました。

本日は、これからの区政の方向性や取組につきましてもお示しをさせていただきますので、また部会同様に本日も活発な意見交換をお願いいたします。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。

○三木議長

それでは、議事に入ります。

お手元の会議次第に沿いまして、議事1、生野区将来ビジョン素案等について、区役所からの説明の後、続けて議事2、部会報告について、3つの部会からの報告に入ります。報告の順番は部会の開催日順で、こどもの未来部会、くらしの安全・安心部会、まちの未来部会の順にお願いします。

それではまず、区役所からの説明をお願いいたします。

○上田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。生野区役所企画総務課課長代理の上田と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。着座にて失礼いたします。

前のスクリーンをご覧くださいませでしょうか。

先日開催いたしました3つの部会でのご意見などを踏まえながら、このたび素案を整理してまいりました。今回は、時間の都合上、ポイントとなる部分を前面スクリーンに投影してご説明させていただきます。詳細につきましては、事前にお送りしております資料1、生野区将来ビジョン素案でご確認いただくようお願いいたします。

区の将来ビジョンで目指すまちの姿ですが、こちらにございますように、現行のビジョンを引継ぎ、3つの姿を目指すこととしております。

そして、目指すまちの姿に向けて進めるに当たって、基本理念とする「異和共生」という考え方です。こちらは、お互いの壁を取り払うことなく壁を残しながら、隙間から一歩ずつお互いが踏み出して一緒にできることを増やしていこうという筋原区長のお考えでもあります。

次に、こちらはまちづくりを家づくりに例えたものです。まずは、家の基礎の部

分となる、つまり安全・安心の分野はとても大切な分野です。そして、家として成り立つための1階部分は経済の活性化です。その分野が充実してまちに人・もの・富が循環することで、2階、3階と教育や子育て、地域福祉といった分野も充実し、さらに家全体、まち全体として担い手が好循環し、持続可能で発展するまちになっていきます。

続きまして、こちらは、まちづくりを進めるに当たっての公民地域連携という手法をマトリックス表で整理したものです。左側の第1分野、第2分野は、行政からの助成をもとにした従来からあるまちづくりで最も大切な必須のステージです。右側上の第3分野になると、民間事業者や専門家などが中心で活動し、ひいてはSDGsにつながるような社会課題の解決にもつながる活動をされ、そこでの行政の役割は規制緩和といった環境づくりがメインとなってきます。そして右下の第4分野では、次世代の育成や継承となり、それがまた第1分野、第2分野につながっていく形となっております。このように、まちには様々な専門家や担い手の方々が多様な資源として存在しています。行政だけの力では限りがあるため、それぞれの強みを生かしながらまち全体で動かしていくということが必要になってきます。

次ですけれども、それぞれの目指すまちに向けた施策の方向性についてです。まず、「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち」では、防災、防犯や健康づくり、見守り、相談・支援のほか、人権、多文化共生などに取り組んでまいります。

続いて、「にぎわいといろどり豊かな魅力あるまち」では、にぎわい創出やものづくりなどの地域の活性化をはじめ、空き家、空きスペースの利活用、郷土愛の醸成や生野のまちの魅力発信などに取り組んでまいります。

3つ目の「子育てに優しく教育に強いまち」では、安心してこどもを産み育てることができる環境づくりや、適正な学校配置の取組、キャリア教育、多世代交流などに取り組んでまいります。

続いて、資料2の生野区地域福祉ビジョンの素案について、担当よりご説明させていただきます。

○谷上保健福祉課長

それでは、保健福祉課長谷上から、資料2、生野区地域福祉ビジョンについてご説明させていただきます。

こちらも時間の都合等もありまして、大きな項目に沿い、簡単に説明をさせていただきます。

前のビジョンに書いてますように、今回の計画は2023年度から2026年度までの4年間としております。

基本理念につきましては、現在の計画のそれを引き継ぎまして、「誰もが地域とつながりを持って、安心して暮らせる共生社会の実現に向け、皆さんと力を合わせて生野区らしい福祉をつくりまします」と掲げております。

地域福祉ビジョンを進める力としましては、まず1つが、医療と介護を必要とする状態の高齢者の方が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることを願っての多職種連携による在宅介護連携などを例とする地域包括システムの推進、2つ目、地域における福祉課題を地域住民一人一人が、他人事ではなく我

が事として主体的な姿勢を持って、地域でともに生活する皆さんで暮らしの課題を考え、改善に向け取り組む住民主体の福祉コミュニティ、3点目、住民やNPO、社会福祉事業者、学校、企業などの活動主体と行政が地域福祉の担い手としてお互いを認め合い、連携を深めてそれぞれが有する強みを発揮できる、そのような多様な協働の推進、そして、地域団体や福祉法人と主体となっている取組だけでなく、いわゆる現役世代の人々が新たなネットワークを築いて取り組む事例など、様々な年代の多様な関心を持つ住民がこれらの活動に触れて興味を持ち、やりがいと充実感を持って参加する機運の醸成が必要です。地域福祉のビジョンを進めるために生野区では、地域の問題解決に向け「ニアイズベター」の考え方のもと、毎年度策定する区運営方針等により具体的な取組を進めてまいります。

地域福祉ビジョンの取組の柱についても項目についてご紹介をしておりますが、特に今回は、このビジョンから新たに出ておりますキーワードについてご説明したいと思います。

赤字で書いているところですが、まず1つ目、「気にかける」取組、誰もが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり実現のためには、住民が自分の身近に暮らす人の存在や変化を気にかけることが出発点となります。福祉的な視点からだけでなく、防犯など様々な取組を通して、気にかける人、地域の目を増やす取組を進めます。

続きまして、こどもの貧困、こちらは親世代の貧困が次世代、こどもの世代へ連鎖するということで、最近よく使われる言葉です。これらが全て様々な課題の原因の1つと指摘されております。さらに、後ろに続くヤングケアラー、一般にヤングケアラーと呼ばれる方は、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこどもとされておりまして、こちらの支援についても、大阪市全体の方針を踏まえながら対策を検討し、進めてまいります。

甚だ雑駁な説明ではございますが、資料2の地域福祉ビジョンの概要についてこれで終わります。

次の資料、資料3、目指すまちに向けた区の取組につきましては、区長の筋原よりご説明させていただきます。

○筋原区長

生野区長、筋原です。

それでは、資料3、目指すまちに向けた区の取組ということで、来年度、令和5年度の区政の方向性と、それと具体的な取組の主なものについてご説明を申し上げます。

生野区の区政の3本柱でございますけれども、前任の山口区長のときから、空き家の課題解決、それから多文化共生、子育て・教育環境の整備という3本柱になっておりましたが、空き家の課題解決というのは、空き家を利活用することによって、結局は地域の経済に活力を与える、元気にしていくということだと思いますので、「空き家活用も含めた地域経済の活性化」という言葉に改めさせていただきました。ですので、3本柱の基本は変わっておりません。こちらに加えて多文化共生と子育て・教育環境の整備となっております。次のページをお願いします。

地域経済の活性化につきまして、では、来年度、具体的に何をやりたいかという
と、やはり万博の開催がありますので、万博の開催を契機とした、公民地域連携に
よって地域の価値を高めるリノベーションを行って、より大きなにぎわいを生み出
すということをやっていきたいと思っています。

具体的な万博に向けての機運醸成ということで、これは仮称なのですが、「EXPO
いくのヒートアッププロジェクト」というのをできればと思っています。

万博会場には、世界中から人と富と新技術が集まってまいります。しかし、それ
はパビリオンにしてもバーチャルなわけですが、生野区には今、約60カ国
の方が暮らすリアルな日常があります。ですので、万博に集まる人・富・新技術を
素通りさせることなく、生野区で受け止める、そういう受け皿づくりをやっていき
たいと思っています。

具体的には、各分野の専門家の方々、あるいは地域で活躍する住民の方々をつな
ぐネットワークをつくっていきたいと思っています。そこに5つのネットワークの
イメージを書いております。まず1つは、今ある既存の飲食店・物販のお店のネッ
トワーク。生野区には既に魅力のある飲食のお店、いろいろなお店がたくさんあり
ますので、それらのお店がネットワークでつながっていただきたいと思ってお
ります。

2つ目が、新しい店舗を誘致するための空き家を活用する専門家の方々のネッ
トワークをつくりたいと思っております、これは後ほど詳しく説明します。

3つ目がものづくり企業、これも生野区は、ものづくり企業の事業所数は24区で
一番多いまちでございます。ものづくり企業の製品開発、生産等の連携をするネッ
トワーク、これも後ほどご説明します。

4つ目が観光案内的な情報発信をするネットワークですね、訪れる方に対して観
光案内的な情報発信をするものです。

5つ目が、まちの楽しい日常を発信する口コミの情報ネットワークですね。まち
の本当の楽しい場所、楽しいお店、いいお店は、やはり住んでおられる方が一番よ
く御存じですので、私も今御幸森に住んでおりますけど、どこのお店がいいですか
って、地元にお住まいの方に聞いて、その情報がすごくおもしろかったりするので、
そういう情報を発信していただく「おせっかいマイスター」、仮称でつけていま
すけども、そういう住民主体の方々のネットワークをつくっていきたいと思ってお
ります。

こういうネットワークをつくって、それぞれが連携をして、いろいろな形で同時
多発的に盛り上げるイベントを開催していただくための支援の予算も来年考えて、
取組を進めたいと思っています。

それから、やはりそのプラットフォームとなる専用のポータルサイトも必要だ
と思いますので、それを構築して運用するというのも来年度の予算で取り組みたい
と思っております。これで万博や生野のまちの魅力を区の内外に発信していき
たいと思っています。

それから、同時に生野区に来ていただき、また区内も移動していただくのに、シ
ェアサイクルの充実というのもやろうとしておまして、生野区と天王寺区の2区

合同でシェアサイクルで提携できる事業者の募集を今、しているところでございます。これによって区内のシェアサイクルの拠点も飛躍的に増えていくと思っております。

こういう形でまちの熱量を上げて、万博に向けて盛り上げようということで、これは万博が目標というよりも、むしろ万博が終わった後も、それ以降もにぎわいを継続するということを目標としまして、あくまで万博をきっかけにして、生野区のまちに人も富も新技術も集まって循環することで、新たな産業も創出して、いい循環を生み出していくようにしたいと思っております。

先ほどの新規店舗誘致のための空き家の活用の専門家ネットワーク、これは空き家や空きスペースを活用したにぎわい創出ということで、具体的にイメージをご説明します。

生野区は、長屋をはじめとした非常に風情のある良い空き家が多くあります。一方で、おもしろい店や事業をしたり、その場所として生野区を選んでくださる若い方々もよくおられます。ですので、空き家のオーナーさんと、おもしろい店や事業をしたい若い方々、これをつなぐコミュニケーターの役割が必要だと思っております。それで空き家を改修、リノベーションをしまして、にぎわいの場をつくっていくということで、こちらのスライドは、私は大正区長もしておりましたが、そのときの参考事例でつけております。例えば、築60年のこういう古い長屋が実際にありまして、1階を小物であるとか、Tシャツなんかをつくるクリエイターさんのアトリエと、それを売る場所にして、2階がDIYで自由につくり変えられる、そういう方々が住める住居にしました。「ヨリドコ大正メイキン」という名前で、もともと築60年の長屋には、もう80代後半のご高齢の方が何人も住んでおりましたが、クリエイターや若い方々が集まって、その高齢者の方々に若い方々が非常にかわいがっていただいて、非常に世代を超えたコミュニティも生まれまして、都市住宅学会の会長賞もいただきました。このときに、空き物件のオーナーさんは、相続が気になって新しい方に貸すのを躊躇されるという状態があり、一方で、テナントで借りたい若い方々というのは、例えば銀行で改修する資金の借り方が分からないとか、収支の書き方が分からないとか、内装を安くあげる方法も分からないとか、いろいろお悩みだったので、それをワンストップで相談できる専門家チーム、大正・港エリア空き家活用協議会、愛称「We Compass」と言うものに行政も入って、弁護士さんや建築家の方、あるいはDIYができる学生のチームなんかも一緒になって、そういうチームをつくって、実際にこういうリノベーションをやっていきました。

では、生野区はどういう状態かという、生野区では既にそういう専門家チームが存在しております。生野区空き家活用プロジェクト運営委員会というのが、既に何年も稼働をしております。ここが月に1回、空き家カフェというのをやっております。また、空き家バンクというのをもちで、その空き家バンクにオーナーさんが活用したいという空き家を登録していただいて、月に1回開催される空き家カフェで、行政も入りますし、また専門家の方々、それから家主さん、買いたい方々、いろいろな事業者の方々や学生さん、いろいろな方々が集まって、どう活用ができるかということマッチングして、いろいろ議論をして、それで実際に

ここで何件も非常に魅力的な空き家のリノベーション、良いお店、良い集える場所が事例としてできております。

ただ、ここで1つの課題というか、空き家バンクに登録していただける空き家の数がなかなか出てこないというのが1つの悩みでありました。そこで、このたび新たな取組として、空き家活用株式会社さんという会社、この会社は全国で空き家を調査して、空き家の掘り起こしをして、それをデジタルデータで管理をして、活性化につなげるという事業をしております。ここの空き家活用株式会社さんが、実は既に生野区の空き家の情報も500件ぐらい持っておられて、それを提供していただいて、今年度から空き家の調査もして、空き家の掘り起こしをやっていこうということで提携をさせていただきました。来年も、空き家活用株式会社さんのような、そういう空き家の掘り起こしをする事業者さんもおられますので、これも予算をつけてシステムティックに空き家の掘り起こしを考えて、風情のある空き家についてはリノベーションの形の活用も考えていきたいと思っています。

その事例としましては、こちらは実際に今、オープンに向けて進んでいるんですけども、「KISA2隊」という、最近テレビの情熱大陸なんかでも非常に取り上げられていて、コロナで自宅療養されている方のサポートをする医療関係者のチームで、北摂の空き家に「KISA2隊」の大阪事務所を設置していただいて、その1階部分には「きたつランド」という名前でこどもたちの居場所を設置するという形で、地域の課題を解決するというのを、空き家の改修補助事業も使って、これがさっきの空き家カフェで実際にできてきた事例ですけど、こういう形でそろそろ工事にかかって、オープンをしていくということになっております。

こういう形で魅力的な場所ができるということもありますし、あるいはオーナーさんによっては、ただ単に古い空き家を、とにかく潰したいとか、売りたいとかということもあります。そのまま放置しておけば特定空家になってしまい、危険な状態になるので、それよりはいい状態、潰して売する場合でも危険な状態になるよりはいいかということで、いろいろな空き家の対処の方法があるので、それをシステムティックにできるように、来年度、取組として考えていきたいと思ひ、こういう形で空き家の利活用を本格的にやっていきたいと思っております。

次に、ものづくり企業の製品開発と生産等の連携ネットワークですけれども、これにつきましては、日本の町工場というのは非常に高い技術力をお持ちです。でも、下請、孫請の時代が長かったので、新しい製品のアイデアがなかなか出てこないということでお悩みだったりします。一方で、大学の研究者であるとかベンチャー企業の方々は、アイデアはありますが、それを形にできないというお悩みがありますので、これら町工場の高い技術力とベンチャーや大学の研究者のアイデアをコラボして新製品を生み出すと、そういう拠点をつくっていききたいと思っております。

こちらも参考事例で、実際に私がおりました大正区、港区でも、ガレージ港、ガレージ大正という、そういう町工場の技術力と、ベンチャーや研究者の新しいアイデアをコラボして新製品を生み出す拠点というのはつくってききましたけれども、これは実際の事例です。港区の事例ですけど、少年野球チームがボールを置いて打つティーバッティングの装置が海外製だったんですけども、ボールを乗せるところが

ゴム製で、そこをたたくとすぐにそこが傷んで壊れたり、こういうふうにスタンドが倒れてしまったりというので、どうしても上からたたくという打ち方になってしまいます。でもホームランを打つには、下から何度かの角度で打ち上げるというのが長打になるというデータがあって、そういう練習ができないというのがお悩みだったんですけども、これを港区、大正区の町工場が集まって、そのゴムの部分を樹脂製にして、そこに鎖をつけて、パーンと打ったら鎖がついてるからビョーンと伸びて、おもりがついてるからそれがまたガシャンと戻るといふ、動画にしたら分かりやすかったんですけど、そういう形にしました。これがたまたま、履正社高校が甲子園で負けた後にこれをお買い上げいただきまして、実際にこれで練習したら夏の甲子園で全国優勝されまして、これのおかげで長打力がついたというのも言ってくれましたので非常に売れまして、その後プロ野球チームにもバンバン売れて、中国でも売れて、今や大リーグからも引き合いが来るかというような売れ方をしております。

というようなこともありますので、大正区では、こういうものづくりフェスタという、子どもたちにもものづくりの魅力を伝えるイベントであるとか、オープンファクトリーという操業中の工場を見学していただくというイベントとか、修学旅行生にも見学に来てもらったりというのをしております。

じゃあ生野区はどうかというと、実は生野区は、私来てびっくりしたんですけど、非常に力のある町工場さん、企業さんが多いです。大正区は、鉄鋼系の大きい工場は多いんですけど、生野区は手作業でいろいろなものをつくれる工場が多くて、それもものすごい高い技術力をお持ちなので、それぞれが既に世界から発注を受けたりしておられて、それを取りまとめた「ものづくり百景」というデータ集もつくっており、先日の生野まつりでもそういうブースをものづくりの企業さんに出してもらいましたが、そういうワークショップの体験をしたり、また生野区、東成区と一緒に、ものづくりフェスタ、ものづくりフォーラムというのも既に何度もやっております、既にもものづくり企業のネットワークというのがございます。また、町工場の高い技術力とベンチャー等のアイデアをコラボして新製品をつくる拠点、生野でしたらガレージ生野になってくれそうな力のある町工場さんももう既におられますので、これは多分すぐにも、ものづくりのネットワークで世界に勝負できる取組が来年度からできると思っております、これも来年度予算も用意して、具体的な取組を始めたいと思っております。

こういう形で、全ての人に居場所と持ち場のあるまち、そして、暮らしても遊んでも働いてもおもしろい「異和共生」のまちづくりを進めていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、続いて、各部会からの報告をお願いします。

まず、子どもの未来部会から、森本委員より報告願います。

○森本委員

では、こどもの未来部会からの報告をさせていただきます。

10月28日に開催をさせていただきました。3点ほどにまとめてご報告をさせていただきます。

1つ目は、子育て世帯をどんなふうにして呼び込んでいったらいいのかというような話でした。そのために、生野区の魅力、さっきの将来ビジョンと重なるんですけども、生野区の魅力をもっと発信できないかというふうなことで、企業やNPOがたくさんあるということで、その活力を活性化するとか、地域にだんじりとか夏祭りとかがあってすごく楽しんでいるという姿がある、そういうことを発信するとか、これも出ていましたけれども、空き家の活用で企業の創業や企業を起こすよう、企業につなげていくというようなことで、魅力がいっぱい発信されていくと子育て世帯がたくさん来てくれるんじゃないのかというような話が1つ目でした。

2つ目は、学校の統廃合とこどもの学力というあたりです。1つは、家で勉強できる状況にない子どもというのがやっぱり見えてきているので、こどもの貧困ということにも関わりますけれども、そこへの対応が必要だよねということ。それと、既に統廃合してきた学校の当事者の子どもたちの意見や感想を取りましようというようなことが、このこどもの未来部会の前の会議で少し出ていたんですが、それについてどういう進捗かということで、これは生野区のほうに問い合わせをさせていただいたら、学校のほうで1月末に集計するというような予定で、今調査をしていますということのご発言をいただきました。その後、集計した後、フィードバックをしてくださるという予定です。今後も統廃合の評価と課題というあたりは整理をしながら、生野区の子どもたちの学校はどうあるべきなのか、こどもの学力をどんなふう保障していくのかということを考えていかないといけないですねということになりました。

3点目は、統廃合に係ることとリンクするんですが、学校の先生たちが大変じゃないかという話がありました。実態のところで見ますと、教員の半数以上が10年未満の先生方が多いというのが今の現状です。でも、だからこそというか、先生が一生懸命やろうとしてうまくいかなかったことの失敗を受け止めてもらおうとかということの中で、先生たちが生野区に赴任したいと思うような、そういう関係づくりを私たちと学校の先生たちとでつくりたいかなと。そんな形で、学校の先生も子どもたちも、ともに生き合っていくというような生野区ができないかなというような話が出されました。

結果的には、子育て世帯を呼び込んでとか、こどもの数を増やしてというような話だったんですけども、他の区から呼び込んでというようなことになると、その区が減っちゃうのだから、それはよくないんじゃないかって。結果として、生野区の中に子どもたちが増えたり、住もうと思う人が増えてくるというような形でのまちづくり、そんなことができたらいいのかなというようなことで、最後の話はまとまりました。

雑駁ですけども、こどもの未来部会の報告は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

続きまして、暮らしの安全・安心部会から、川中委員より報告をお願いいたします。

○川中委員

それでは、議長のご指名に従いまして、川中より暮らしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。

こちらの部会は10月31日に行われました。この部会では、3つの事柄について主に話し合いました。防災・防犯についてが1つ、地域福祉についてが2つ目、人権・多文化共生についてが3つ目となります。それぞれにつきまして、資料をご覧いただきながら説明をさせていただきます。

まず、防災につきましては、これも細かく分けまして、大きく3つの話がなされました。今お手元の資料ですと、上から6つ目までが防災に関する意見となっています。

1つは、地域防災に関するところですが、とりわけ防災訓練、避難訓練、そうしたものをコロナ禍でストップしていたんだけど、再開をし始めている。ですけど、久しぶりの再開なので、なかなか勘どころが戻るまでに少し時間がかかるなというところで、それをこれからもう一度軌道に乗せていくことを進めていかなければいけないというあたりです。

2つ目が避難所、あるいは避難生活の環境の在り方や改善についての意見というのがいくつか出されました。行きたい避難所、あるいは、様々な形で避難生活を送られる方々の環境というものをどのようにカバーしていくのかというところを、これから充実させていく必要があるのではないかとということです。

3つ目は、防災全般に渡っての意見でした。生野区の高齢化率の高さや多文化・多言語背景の住民が多いといったような、地域特性に応じた防災というものをより明確に構築をしていかなければならないのではないかとというあたりです。これが1つ目の防災に関するところですが。

防犯に関しましては4つの意見がありまして、全てが自転車マナーの向上というところについての意見でした。ソフト面での一人一人の意識の啓発というところもありますし、そうした事故が起こりにくいようなハードの環境というの、計画的に、戦略的に進めていく必要があるのではないかとといったことも出されました。防犯につきましては以上です。

地域福祉につきましては、裏面のところでございますけれども、3点の意見が出ております。先ほどの地域福祉のビジョンの中でも説明がありましたが、ヤングケアラーについての意見というものが2つ出ています。ヤングケアラーやこども若者ケアラーの支援について、多元化していく必要があるだろうといったようなところがございます。なかなか従来の福祉の支援の方策では、十分にニーズを捉え切れていないところもあるので、新しいニーズの補足と支援の在り方というところを構築していく必要があるだろうということです。

そして、こどもの貧困についての意見も出されました。こどもの貧困となりますと、先ほども貧困の連鎖ということがキーワードになっていて、こどもの支援とい

うところが非常に力点が置かれがちなんですけれども、こども家庭福祉という観点に立てば、家庭の支援ですね、そちらのところにもきちんと力を入れていかなければいけないのではないかとといった話です。

人権・多文化共生につきましては1件意見が出ていまして、外国人住民のサポートは当然といたしましても、日本文化を母文化とするような住民側の啓発や変化みたいなどころの促進というところも、共生をしていくには必要ではないかということでございます。

この部会では、ビジョン全体に対しての意見も1点出ておりまして、先ほどから地域の魅力をどう発信するのかとあったことがありましたけれども、なかなか行政だけでは難しいところもあるので、地域住民と協働して、連携しての取組をより一層進めていく必要があるのではないかとといった意見を委員の方からいただきました。詳細につきましては、資料をまたご清覧ください。

○三木議長

ありがとうございました。

続きまして、まちの未来部会から、山納委員より報告をお願いいたします。

○山納委員

まちの未来部会、山納でございます。

開催日は11月1日となります。出たお話をしていきたいと思うんですが、先ほどの資料、ご説明がありました生野区将来ビジョンについての説明、あれを1カ月前にいただきまして、それを基に意見が始まったという印象を持っています。特に、公民地域連携という4象限の図が示されました。もともとは行政によるという形で進められていたものが、徐々に民間事業者、専門家が担うという領域になっていき、そして収益事業としてやっていく。そして教育、コラボレーションをしてそれを進めていくという図が示されたときに、ここにも出てきますけれども、まちの姿というのは、当事者となる人、エンジンになる人は誰なんだろうということを言っていたり、裏面になりますが、民間事業者や事業者、専門家が必要とあるが、これは誰なんだろうということが上の2つ目に書かれています。これがちゃんといないと絵に描いた餅に終わりますよねという、意地悪な感じの話もさせていただいたところなんです、それを力強く担うプレイヤーが生野区にはいますよというお話を筋原区長からいただいております。そのあたりをじっくりと考えてみるという会になったと思います。

ここの資料で言うと、一番上に10月30日、いくのパーク、いくの多文化クロッシングフェスというのが行われて、すごくよかったという意見が複数の委員から寄せられています。その会場に実際に足を運ばれて、「ザ・生野」って書いていますが、その雰囲気を感じてきた。多文化共生というのは、これから地域にイベントという形で、こう生かしていくんだということを感じましたというようなご意見をいただいたりしています。イベントをどんどんやっていくことによってまちのイメージを変えていく、ここに住みたい人たちを増やしていくというようなことの取っかかりと言うんでしょうか、こういうイメージなんだろうなということを皆さんで共有できたということかと思えます。

事業として、空き家活用ということがやはり出てまいりました。リノベーションという言葉も先ほどありましたけれども、例えばリノベーションって今ここにいる委員の方の誰ができるだろうか。建築家とか、法律に詳しい人とか、不動産を触れる人がいないと、潰してしまったらどうしようとか、貸して返してくれなかったらどうしようみたいなことを心配する。やはり専門家が要りますよねという話をしている、実際、委員の中にもそういうフィールドで活躍をしている方もおられる。そういうことをどんどん民間の側でやれる人を増やしていこう、自発的にやっていこうというようなことの話が出ていたりもしました。

一番下の多文化共生の話でも出てきますけれども、多文化共生、今60カ国の方が生野区におられると。多文化共生していきましようっていうことって、実はこの会議のテーブルで様々な国の人たちがいて集まったら早いんじゃないでしょうか。韓国の人だったり、ベトナムの人だったり、ほかの国の人たちが集まる会議、テーブルがあれば、多文化共生ってやりやすいんじゃないですかね。実際そういうことをやりたいですよって言って、僕らが会議で多文化共生をしましようと言っているだけではなくて、アクションとしてそういうことはやっていかないとというような意見などが出ていたりしました。

長年この委員を務めていただいていた方々の中で、もうそろそろ若い人に任せていこうかなというような意見も出ていたりしました。まさに力強くいろいろなことが動き出すフェーズとして、まちづくりを進めていくに当たって、そういう人たちが中心になって、若い人たちなり専門家であったり、事業者であったりが話し合っただけで力強く進めていく必要があるなということ、そして住民、今まで長らくまちづくりに取り組んできた人たちにとって、やれる役割は何なんだろうということを改めて考えてみる、そんな部会になったかと思っております。

○三木議長

ありがとうございました。

ただいま区役所からの説明と、各部会からの報告がありました。

これから、委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員を代表して、山納委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、山納委員、よろしくお願いします。

○山納委員

あらためまして、山納でございます。ファシリテーターをやるときには立つというのがスタイルになっておりますので、進めていきたいと思っております。

今日の委員の方のご出席が18名ですかね、これからお話をしていこうということでございます。8時40分までと伺っていますから、18名で45分、2分半ぐらいお話をする時間があるかと思っております。

既に区役所からの説明を二度聞かれているかと思っておりますし、これからの将来のビジョン、そして、次にありました福祉ビジョンのほうも示していただきましたし、令和5年度の運営方針というのでも示していただいております。先ほどの図にも示していただいた、まず基礎、安全・安心が大事ですよ、その上に1階をつくりまします。1

階というのは経済の活性化です。そして2階部分、教育ですとか、子育てですとか、地域福祉、こういうところをしっかりと固めながら進んでいくという方向性も示していただいていますし、そこに民間事業者、そして専門家の方々が大きな役割を果たしていただけるだろうということを示していただいています。具体的にこういうことをやっていきたいと思いますということも聞いていただいているかと思います。これを頭に置きつつ、皆さんにお話を伺っていきたくと思っています。やはり強く思っていること、ここにこだわっている、こういうことをやっていきたい、やっていただきたいというお話をいただいても結構ですし、そういうことも随分話してこられたかと思っています。それがさらに発展して、令和5年度以降とか将来に向けて、どういうことをやっていくべきであろう、やっていきたく思っているみたいなご意見を、お一人お一人から伺えればと思っております。

ということで、準備はよろしいでしょうか。またマイクを回していきたくと思います。前回、これをやったときにどういふマイクの回し方をしたか覚えていないんですが、一旦どなたからでも、整った方からお話しただくということでもよろしいでしょうか。難しければ端からにします。お話しただけの方、挙手いただけると助かります。いかがでしょうか。絶対に回ってきますよ。どなたか口火を切っていただけないでしょうか。

それでは大藤委員からお願いしてもよろしいですか。

○大藤委員

皆さん、こんばんは。巽南から来させてもらっています大藤です。どうぞよろしくお願ひします。

私、この間、地域の花火大会というのをさせてもらって、思わぬ人数が来られて、コロナが大分収まったというのもあるのかもしれませんが、そんなに告知しなかったのに700人から800人来られて、雨上がりにびっくりしたんです。

地域の方に言わせますと、町会に入っていない方もたくさん来ているということも多くお話聞いたんです。でも、そういうイベントがきっかけで地域に関わっていただけるようなことが増えたらなと。そういうところからつながりができるのかなというふうに思っています。やっぱりつながりがないと、地域の学校に対しての思いも伝わってこないし、地域防災についても入ってこないし、どこまでいっても人と人のつながりというのが一番大事なんだなって。そういう意味では、口伝えで広まったと思うんですけども、このイベント1つに来られた人数を考えると、やっぱり人の口コミというのは大事だと。だから、みんなですっかり発信していくということが必要なんだと、僕はこの間、切に思いました。

○山納委員

ありがとうございます。イベントをやったら人が集まった。関わりができる、顔見知りになる、そこから進んでいくこともあろうというお話でございました。

森本さん、行きましょうか。

○森本委員

森本です。

2点ですね。1点は、先ほどの提案でも出ていましたけれども、在日外国人の人

たち、60カ国の方々がいるということで、私たちが対話をしていく場というものが要るなと思っています。そういう意味では、この間の皆さんに評価をいただきましたクロッシングフェスというようなイベントが、そういう出会いの場にはなるのかなと思うんですけれども、何か困り事がないですかみたいなことが、例えばその地域の中でできるとか、そんなふうな場づくりができていくといいなというのが1つです。

もう一点は、こどもの未来部会から出ていましたが、学校の先生たちですね。いろいろな状況の中で、ひょっとしてしんどい状態にあるのではないかなという気もしています。先生たちの評価の仕組みがすごくきちり整っているので、こどもたちが分からなかったら「あなたの教え方ですよ」というような評価になっていっているんで、本当に先生たちも苦しいんじゃないかなというふうに思います。その一方で、先生たちが穏やかで豊かでないと、こどもたちも実はしんどくて、学校に行かないこどもたちというのも課題にはずっと上がっているかと思うんですけれども、そういうことを含めて、学校の先生たちのしんどさとかを聞けるという場もあったらいいなというふうに思います。決してお互いを責め合うのではなくて、「先生何がしんどい」って聞けるような、何かそんな場ができていくことで、生野区に赴任したいとか、生野区に来たいとか、生野区のこどもと一緒に成長したいと思うような先生方になっていただく、そんなことが何か実現していただけたらありがたいなというふうに思います。

○山納委員

ありがとうございます。多文化共生という、実際の当事者と言うんでしょうか、そういう人たちが集まれる場、必要ですし、学校の先生たちのための場も必要であると、ご意見いただきました。

続きまして、廣川さん。

○廣川委員

お疲れさまです。廣川です。

クロッシングフェスで言いますと、積極的に海外の方、住まれている多国籍の方と話をしたら、やっぱり交流をしたい人たちはたくさんいて、その糸口が見つからない。ただ、話したら心を開いていく。それをどれだけ民間の人たちもやっていくのか。多分、行政主体やったらちょっと難しいのかなとも思うので、そこら辺のところオリジナルのまちになっていく鍵なのかなというのをぼんやりと思いつながら、活動していかなというのを考えているところです。

○山納委員

よろしいですか。多文化共生の糸口をどの辺に生み出せるかということでございます。

北口委員、お願いいたします。

○北口（英）委員

こんばんは。巽東の北口と申します。

ここで言う話かどう微妙なんですけれども、先日、巽東に支援学校があるんですが、それが旧勝山高校、現大阪わかば高校の校庭に移転して新築するという話が出

たんですけども、将来的にそういう方が増えてくるという傾向らしいので、それはそれで大事なことだと思うのですが、支援学校で今、大型バス、お迎えとかで12台ほど使ってはるらしいんですが、その12台を、大阪わかば高校の東側に川があってそこに道が通ってるんですが、その道をバスが通ると。その道を走られた方はよく分かっていると思うんですが、途中橋がかかってあって、道も平坦ではなくて、電柱も高校側に何本も立ってるんで、真っすぐ走れる道じゃないんです。その道を、地図上ではバスが走れるのは当たり前なんですが、そこは交通量が多くてダンプカーも通ったりするので、将来的に事故とかが起こる可能性があるんで、できたら川を蓋して道を拡張するとか、何か方法がとれないものかという、一応説明会ではそういう提案はさせていただいているんですが、将来的にまちをつくるという面で危険な道になりかねないので、ここで1つお話を出した次第であります。

この件に関して、東大阪と生野区の境目ですから、当然大阪府内の話なんですけども、できるできないというのもあるんですけども、皆様のお知恵とかお力を出していただければなと思って、ここでお話しさせていただきました。

○山納委員

ありがとうございます。異東支援学校の移転に伴う、もしかしたらここが危険になるんじゃないかという地域があるということをご共有させていただきました。ありがとうございます。

古本委員、よろしいでしょうか。

○古本委員

こんばんは。北異の古本でございます。よろしく申し上げます。

先ほどお話ありました、異南さんでしたかね、花火大会。前は私も、北異も同じように花火大会をさせてもらいました。北異小学校を使ったんですが、30分ほど実際には打ち上げ花火ですね。公園でできないものですから、学校を借りてさせていただくというようなことで、今言われていた異南さんの800人ぐらい、そこまで集まってないだろうと思いますが、600か700ぐらいは十分集まっていたかなと思います。

私は立場上の防犯と防災を担当しているものですが、直接打ち合わせとかいうのには参加してなかったんですけど、防犯のほうも応援、どんな行事をするのも、表でする行事は防犯と防災というのは付き物で、防犯の各14町会北異はあるんですけど、3名ずつお願いしまして、余分に四、五名出てくれたところもあるものから、防犯だけで50名ぐらいの応援がありました。そういうことで、お互いに協力し合うというか、そういうのがものすごい進んでいるなというような印象を受けました。

今度の日曜日は焼き芋大会しよかというような話で、実施する予定なんですけども、そういった行事をすることでお互いの意思疎通といいますか、そういったことが生まれるのが良いことかなと思ったりします。

○山納委員

ありがとうございます。イベントでつながりができると、その後、防犯・防災というふうに広がっていける、そういうときにも助け合っていけるという、このイベ

ントというものの使い方、効用というものをいろいろ深く、広く考えていけることができるのかもしれませんが。ありがとうございます。

宮崎委員、よろしいでしょうか。

○宮崎委員

イベントをコロナの中でもやりましたが、屋台とか花火もそうですし、ものすごい喜びますね。確かにこどもも来てくれるし、こどもに連れられて親も、こどもの親やからまだ若いわね、若い人も来て、その人らが次期の僕らの後の担い手になってくれるかどうかというのを、中ではそうすることによって担い手ができるという声もあるけど、僕はなかなか、これからの若い人が自治活動とか地域活動にボランティアというか、そういうことに喜びを覚えたりは難しいんじゃないかなと思う。PTA活動でも参加しない人、昔だったら男性も参加してたけど、今はほとんど女性ばかりで、PTAを指名しても集まってくれる人が限られた人になってきているとかね。そうやから、担い手をつくって、地域活動を継続していくというような考え方が正しいのかなと思ってね。

かなりの人数を寄せて祭りとか花火とかやるとなったら、確かにボランティアで助けてくれる人というのが多数必要やからね。御幸森もやりましたけど、多数の応援してくれる人の人数と、イベントに集まってきている人数のバランスが崩れているような気がして、もっと手伝ってくれないとね。夜でしたから、電気もかなり増やしてやったんですけど、やっぱり暗いでしょ。あれだけの人 cameたら何か起きないかなと思ってね。みんなはおとなしく順番に並んでくれてたけど、誰か喧嘩でもされたらどうなるのかなと思って、ちょっと怖さを感じたね。僕はその責任者でもあったから、もっと多数の大人が助けてくれんと、隅っこに寄ってるこどもにけがでもされたら考える。だから、集まってくる人数とボランティアの数とのバランスを考えて、これやったらアルバイトで警備でも雇うとかしない限り、ここで言われてたけど、防犯で3人ずつ集まって40人ぐらい来てくれたって、そんなこと御幸森じゃ考えられないからね。

今、行事を一生懸命みんなやって、今度の日曜日もクリスマスのイルミネーションの点灯をやるんですけど、イルミネーションもだんだん華やかになって、豪華になって、ほかのイルミネーションはみんなプロがある程度デザインしてやってるけど、御幸森はまるっきり素人ばかりでやってるんだけど、毎年のように5万、10万を使って、電飾を増やして、見に来てもらったら分かると思うけど、ものすごいきれいにできてます。ところが、高いところでやるほうがいいけど、高いところでやるって言うと危ないということで、年齢がみんな高いからね。高いはしごでやってたんですけど、もう何年か前から、誰か落ちてけがするからということで、建築関係の人に相談してクレーンを出してもらって、クレーンで高いところを専門の職人さんに手伝ってもらうような形でやってるんだけど、僕の一番気にしてるのは、担い手が、果たしてこういう形でやっていって、手伝ってくれる人ができていくのかなと思うんだけどね、それが心配です。

○山納委員

ありがとうございます。イベントがつながりをつくるという一方で、来てくれた

人たちは本当に担い手になってくれるのだろうかというお話をいただきました。また、イベントをやること自体にかなり力がかかる、危険も伴う、それをやっていけるのだろうか、記憶にも新しい韓国の梨泰院ですね、ものすごく人が集まったときに本当に人の命に関わるようなことが起きる。日本でも花火大会、明石で人が亡くなった事件というのが起こっていたりする。イベント自体をやっていく体制というのも考えていかないといけない、そんなお話をいただいたかと思います。

このまま回っていくかと思いきや、向こうに飛んでみようと思います。塚本委員、よろしいでしょうか。

○塚本委員

こどもの未来部会、塚本ですけれども、今こども食堂とか、いろいろ工夫して頑張っておられる団体が生野区でたくさんありまして、その団体それぞれが独自というか、こういうことをしているんだけれども、もっと知ってほしいというか、こどもたちとかにもっと参加してほしいとか、そういう思いで頑張っておられる多くの人たちがいるもんですから、区役所からもメッセージの発信ですとか、こういうところでやっていますよということ、今もたくさんしていただいていると思うんですが、もっと多くそういう発信の機会というものがあると、頑張っておられる方の励みにもなりますし、受ける側もそういうことがあったのかと知ることができると、困っておられるこどもさんたち、家庭の皆さんとかも役に立つかなというふうに思いますので、その辺のご検討をいただきたいなと思います。

あともう1つですけれども、私は区政会議2期目ということで、前期、安心・安全部会とかに参加させていただいている中で、一番今印象に残って、ああよかったなというのが、生野区の交通ですね。非常に不便な自転車でしか移動できない生野区ということで、ここで住民の皆さんたちとどう交通があればいいのかなということで、40人か50人ぐらいで話をしたことを覚えてまして、今出来上がったのがオンデマンドバスと。そのオンデマンドバスには、私は毎日乗らせていただいているんですけれども、最初は本当に誰も乗ってくれないということで、ここでどうしようという話をしていたんですけど、今や乗り合いが多くて、3人のお母さんがベビーカーにこどもを乗せて、こんないっぱいなん初めて見たとかってというのがどんどん増えてきてまして、すごく生野区の交通に貢献しているものですから、もっと広く、多くの人に使ってもらえると不便さが解消されて、生野区ももっと住みやすいまちになるんだなというふうに思いました。

それで、私もお高齢の方お二人とかに、予約の仕方とか乗り方とか、一緒に乗ったり、そういうこともやっていますけれども、この辺、今は大阪シティバスのほうで全部管理されていると思いますけど、これから生野区役所として、どこまで関わられるか分かりませんが、その辺、意見を聞けたらなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。実はこども食堂に携わっている多くの方がおられると、人知れず頑張っている、そういう人たちの情報をもっと伝えていくと励みになるし、こどもたちのためになるというご意見をいただきました。学校の先生が行き詰まっているというお話もあったりしました。全体として、こどもたちなり先生なりに関

わる環境をどうつくっていくのかということは、確かに考えていく必要があるなど伺っていて思います。そして、不便だった交通がオンデマンドバスで非常によくなってきたと。これは大阪メトログループがやっていることですが、区役所がもうちょっと関わっていけないだろうかというお話もいただいております。ありがとうございます。

加藤委員、お願いできますでしょうか。

○加藤委員

西生野の加藤です。

学校統廃合があって、こどもの通学路の安全とかが、まだまだ確保されていないと思うんです。いつ頃になったらそういうのがちゃんとできるのか。今、疎開道路でも、道が広くなって、歩道ができるように聞いてますけども、できるのは10年先かなとかいう話で、今小学校1年生の子が学校出た頃に歩道ができるんだなと思ったりね。いつ頃になったらもうちょっと広い道になって、こどもが安全に学校行けるのかという。こどもの安全、学校の先生も回られてますし、役所の人も時々来られているのは目にしているんですけど、ほとんど見守り隊のボランティアの人がやってる状態ですから、見守り隊は交通規制もできないし、注意しても全然聞いてくれない、そういう話も聞いてます。区役所から、あと1年、2年したらもうちょっとこどもの安全を守れますよというような、そういう提示をしてほしいなと思います。

○山納委員

ありがとうございます。道路、通学の安全という話、ハードを変えていくのには何年もかかります、工事もしなければならぬ。見守り隊が頑張っているだけか、そうではなくて、交通規制の権限もないとありましたが、交通規制みたいなソフトをどう駆使して、ハードが変わるまでに状況を変えていくのかみたいなことも確かに考えていく必要があるのかなと、伺っていて思いました。

前田委員、お願いいたします。

○前田委員

こどもの未来部会の前田です。

先ほど何名からかもお声が上がったんですが、多文化クロッシングフェス、私も運営に携わらせていただきまして、課題が多くありながらではあったんですが、生野の魅力が詰まった本当にいいものになったのではないかと思います。行政、地域、企業、そして教育機関ですね、本当に全てが交ざり合って、本当にビジョンにもある公民地域連携といったところが実現されていたのではないかと思います。

それは1つ、実現している形になっているものですので、ぜひ今後も継続して欲しいなと思いますし、先ほど課題とも言ったんですけども、やっぱりこういうのはボランティアの方々に成り立っているものです。継続していく上に当たっては、ボランティアの方々の負担というのも、すごい規模になれば増えていくと思うので、その方々への素地、何か仕組みをつくってあげればいいのかと思います。それに合わせて、魅力の発信というか、そういうイベントがあるよという発信はしていかなければいけないなというのを感じています。1個あったんですけども、ポ

ータルサイトを新しくつくっていくというような内容だったんですが、既存のSNSももっと活用していいんじゃないかなというふうにも感じました。新しいポータルサイトをつくったら、またその広告の宣伝とかもしないといけないので、既存のSNS、多分若い世代の方は一番見ると思うので、そこの活用をうまいこと何かできたらいいんじゃないかなと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。多文化共生がうまくいきつつある一方で、イベントのボランティアの負担というものもやはりかかってくる、その辺をどうしていくのかということ。そして、ポータルサイトだけではなく、SNSなどを活用した情報発信もというお話をいただきました。

では、川口委員、お願いできますでしょうか。

○川口委員

こんばんは、中川地域の川口です。よろしくお願ひします。

高齢者の方のお話なんですが、ここ二、三年、コロナの影響でいろいろな行事が開催できておりませんでした。今年は勇気を出していろいろな行事をしました。この11月に日帰り旅行に行かせていただいたんですけど、参加された高齢者の皆さんが喜ばれて、皆さんにお会いしたら「ありがとう、ありがとう」と言って、感謝の言葉をいただきました。だから、コロナも怖いんですけど、思い切って行動をしたということすごく皆さんとの交流ができたので、これからも、コロナに気をつけて進めていきたいなとは思ひます。また、高齢者の方は家にばかりおられて、外に出る機会がないので、食事サービスやサロンを再開させてもらっているんですが、皆さん喜ばれて、帰るときなんか生き生きされておられますので、こちらもコロナに気をつけて、これからも進めさせていきたいなと思っています。

○山納委員

ありがとうございます。ツアーイベント、人が出会うというのはやはり力が生まれてくる、そんな感じですね。

北口委員、お願いいたします。

○北口（充）委員

巽東の北口です。

くらしの安全・安心部会といたしまして、区役所さんからの資料にもございますように、まちづくりの基本理念と将来像の土台、基礎となる安全・安心分野で、やはり防災や防犯面の再確認が必要かと思ひます。その点で、コロナが収束しましたら、生野区地域ごとでもいいんですが、防災訓練の実施が必要かなと考えます。

○山納委員

ありがとうございます。防災訓練ができるようになったら、しっかりとその辺を確認していきたいと。ありがとうございました。

続きまして、柴田委員、お願いいたします。

○柴田委員

巽の柴田です。

くらしの安全・安心部会にも出てましたけれども、自転車の交通マナーの悪さが

目立っているというので、クリスマス会を行うことになって、警察に出張講座、自転車のマナー講座なりができないだろうかというお願いをしたんですけれども、今現在、コロナの状況によって、こういった講座等は一切やっておりませんというお答えをいただいたんです。警察の方も小学校に対して、年に何回かの講座をやられているとは思いますが、ぜひテレビ等で取り上げられている厳罰化するというような報道がされているこの機会を利用して、ぜひ出張講座とかをもう一度復活させていただきたい。もし警察等が忙しいのであれば、区役所と連携していただいて、何らかの形で、こどもたちだけじゃなく、PTA、保護者等にもそういった周知徹底ができるような講座をやっていただければと思います。

○山納委員

ありがとうございます。警察はコロナでとおっしゃいますけれども、こんな状況が変わっていく、法律を変えていこうというときには、ちゃんとPRをする動きを届けたいというお話でございました。

菽本委員、お願いいたします。

○菽本委員

こんばんは。くらしの安全・安心部会の菽本です。よろしく申し上げます。

先ほどもありましたが、台風のときの自主避難についてお話しさせてもらいたいと思います。このときの台風、報道では大変大きくて、強力であるということでした。それで、僕も避難所はどんなになるんだろうなと思って見に行っただけなんですけれども、門は閉まってて、その門に貼り紙がしてあったんですね。「避難される方は区役所のほうへどうぞ」ということで。こういう場合、まず最初に避難される方というのは、災害弱者、高齢者の方が多いと思うんですけども、こういう方に、こういうような状態のときに区役所までというのは、ちょっと大変なんじゃないかなと思いました。それで、自宅から区役所にとというのは難しいかも分かりませんが、地域の避難所から区役所への移動手段として、オンデマンドバスを利用したらどうなんかなと、そういうふうに思いました。

○山納委員

困りますよね、それでは。そういうことをどう考えていくかということと、それはオンデマンドバスで移動とかができないのでしょうかというご意見をいただきました。ありがとうございます。

川中委員、お願いいたします。

○川中委員

全体を通しまして、小さいことを4つほど申し上げます。今日ご説明の中でも、まちづくりを家づくりの例えで示されました。今日、1階部分については、かなり区長から丁寧なご説明をいただきました。そのおかげで理解も深まりましたし、何よりも区長の熱意が非常に感じられて、よかったなと私自身は思いました。

同時に、だからこそ基礎部分をどう強化するのかとか、2階、3階部分をどう充実させていくのかといったあたりについても、今後の戦略、あるいは重点策みたいなところですね、またお聞きできたらよかったなという思いを今しております。またどこかでお聞かせください。それが1つ目です。

2つ目ですけれども、今日議論していますビジョン、これにたどり着いていくためのロードマップをどうつくっていくのかというところが、これから考えていかなければならないなと思って今議論に臨んでいます。こうしたロードマップを専門家、あるいは民間事業者に任せるのではなくて、やはり住民自治の観点から、市民参加のプロセスというのを設計していくということが重要ではないのかなと思いますし、そのプロセスに応える住民が多いんだなということもこの会議を通じて感じております。そのあたりの参加のデザイン、そのあたりもまた考えていただけたらいいなと思いますし、その中で、プロセスの参加の中を通じて、市民性みたいなものは涵養されていくということかと思っております。

3つ目ですけれども、これは前回の全体会でも申し上げたんですけれども、そうした区政参加、あるいは区政における対話の場に子どもや若者の参加というものをぜひ押し進めていただくことによって、まちの継承というのは、今からでも進めていくことができるのではないかというふうに思っております。ご検討いただけたらと思います。

最後、4点目ですけれども、1つ少し残念だなというふうに思いましたのは、将来ビジョンの最後、48ページのところに、区役所の改革について、改善についてというところが書いてありますが、ちょっと淡白だなというふうに見えておまして、区役所自体がこれからの大きな時代や社会の変化の中で、どういう方向で改革、改善していこうとしているのかという方向性も示していただけると、住民も協働のパートナーとして、区役所の方向性がかめてよいのではないかなと思いました。もちろんその中には、近年、D&I戦略、ダイバーシティとインクルージョン、多様性と包摂と言われているような戦略をどう強化するのかといったことも含まれてくるかと思っております。また、そうしたところも一緒に考えていけたらいいなというふうに思いました。

○山納委員

ありがとうございます。1階部分の評価、基礎や2階、3階部分をさらにどう進めていくのかというお話がありました。ビジョンにたどり着くためのロードマップというものを住民自身が参画していく、参加のデザインをどうつくっていくかというお話をいただいたり、区民参加の場に子ども、若者、どう巻き込んでいけるのか、連れてこれるのか、集まっていただけなのかということがありました。最後に、区役所自身の改革ということに関して、もうちょっと視点を持った、ダイバーシティとインクルージョンというようなことの実現に向けてもというお話をいただきました。ありがとうございます。

続きまして、こちらの列に参ります。橋野委員、お願いいたします。

○橋野委員

くらしの安全・安心部会の中川の橋野です。

空き家問題なんですけれども、リノベーションをする前に、家自体の調査というのを一度してもらえないのかなというのが1つの考えなんです。実は私のところは、地域的に50年以上経っている家がたくさんありまして、2年ぐらい前に外壁のタイルが落ちたり、セメントが落ちたりで、人が通っていたら大けがになっていたとい

うようなケースがありますので、やっぱり人が入ってないところというのは家の傷みが激しいと思うので、そういう調査をしていただけたらありがたいと思う。

○山納委員

ありがとうございます。空き家問題と言いますけれども、一般に住んでいる人にとって、家が古くなっていく、それにどう手をつけていったらいいのかというのは、素人としてはなかなか難しい。相談できる場所があればというようなこと、その考え方、調査などをしていただけたらというお話だったかと思います。ありがとうございます。

それでは、船方副議長、お願いいたします。

○船方副議長

北鶴橋の船方と申します。まちの未来部会に所属させていただいています。

私のほうは、この前の生野まつりで、ものづくりのコーナーがあったと思うんですけども、あれは本当に非常にいいアイデアだなというふうに思いました。先ほど筋原区長も、生野区はものづくりのまちだということで、その魅力を発信していきたい、あと、ものづくりの技術を持っている人と、それを使って事業を立ち上げていきたい人のネットワークをつくりたいというふうにおっしゃっていたと思うんですけども、そのものづくり、とてもいいアイデアなんですけど、東成区と生野区が合同でフォーラムをされているというのも先ほど知ったところで、多分、全体的にまだ知らない方が多いというのと、ものづくりで生野区はすごいんだということを知らない小学生たちも多いと思うんです。ですので、例えば、百貨店とかの物産展のような形で、生野区の技術の披露の場とか、そういったものを生野まつりだけではなくて、いろいろな催事を借りてやっていくと、いろいろな人に周知徹底されていって、興味を持って、生野区の魅力に気づいていただけるんじゃないかなというふうに思いました。

○山納委員

ありがとうございます。生野のものづくりのコーナーなどがあったけれども、技術のある人と事業を行う人のネットワークとおっしゃいますが、まだまだ生野のものづくりは知られていません。こどもたちがもっと知るように、もっとその発信をというようなお話をいただきました。

余談ですが、八尾市って「みせるばやお」っていう場所を持っています。八尾市の企業がものづくりのワークショップをこどもたちにしてもらうために、駅前商業施設の8階で、そういう場所をつくってやっていただいています。そういう巻き込み方というの、確かにすぐ近くでもやっていることかもしれません。この部分に関して、いろいろなことが今後考えられるかもしれません。

それでは、三木議長、お願いいたします。

○三木議長

鶴橋地区の三木でございます。所属はくらしの安全・安心部会でございます、2点ほどございます。

先ほど防災訓練というお話が出たかと思いますが、11月の下旬に防災の担当者で、生野区役所さんの防災担当の方も出られていると思いますけども、防

災訓練をされているんですよね。それで、この中身を見ますと、避難所の受付の流れであるとか、各避難所でどういった備蓄品があるのかとか、いろいろなことで訓練されておられましたけど、実は今日12月号の生野の広報をいただきまして、できれば1月号の広報の中で、災害発生時のときにどのような対応をすればいいのかというのを、簡潔で結構でございますので、できれば広報に載せていただければどうかと思います。

それともう一点、自転車のマナー違反だとかというお話もございましたけども、数か月前にコリアタウンで、遠方から観光で来られたお子さん、無免許で車検なし、もちろん保険もなしという車で交通事故があって、お亡くなりになって、その後すぐ生野警察、あるいは区役所と関係者の間で打ち合わせをしまして、今現在、コリアタウンは、時間帯によっては自転車も通れない、歩行者のみという時間帯が日中多くとられています。もちろん道路標識も自転車も通行できないということで、歩行者のみということになっておりますけども、先週、コリアタウンの商店街の役員さんとお話しする機会があったときに、自転車の通行禁止時間帯においても自転車で通行されている人がいる。注意をしたら逆切れされて怒られてしまうという内容でございました。いくら商店街の役員さんといえども、自転車で通行するマナー違反の方を注意する人も限度があって、なかなか難しいというお話がありましたので、できれば警察から、毎日とは言いませんけども、たまには巡回いただいて、通行禁止時間帯に自転車で走っている人については、注意をできればしていただきたいなと思います。

○山納委員

ありがとうございました。避難所の受付の流れというものに関して、できれば広報に載せていただけないだろうか、そのことの周知ができたらということと、生野コリアタウンで自動車の事故があったり、自転車が入ってはいけない時間に入ってきたりと、そういうことが起こっているという情報を共有いただきました。ウォッチしていけたらと思います。

ということで、皆さんの円滑な進行のご協力によりまして、ちょうど時間に皆さんの意見をいただくことができました。

ということで、三木議長にこのマイクをお返ししていこうかと思います

○三木議長

山納委員、ありがとうございました。

それでは、本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席いただいております歴代議長等を務められた皆様から、何かご意見等がございましたらよろしくお願ひします。

○多田様

多田と申します。

今オンデマンドバスの発言が出ましたので、私、生野区を代表して大阪市へ出向いておりまして、タクシー業界とオンデマンドバスの運行について検討するところで発言しておりますので、オンデマンドバスについて説明させていただきます。

オンデマンドバスは、当初は1年間の社会実験だということで始めさせていただ

きました。当初は、さっきおっしゃったようになかなか乗られる方が少なく、社会実験といえどもこの制度は頓挫してしまうかなというところだったんですが、だんだんと利用される方が増えまして、1年間は何とかしのげたんです。もう1年間させてくださいということで、タクシー業界と検討した結果、1年間もう一度やることになり、今2年目に入っているわけです。来年の3月で一応2年間の社会実験は終わりなんですけど、今度新たに3年目に向かっての社会実験を続けさせてほしいという依頼をするところですが、今オンデマンドバスが地域において非常に根づいております。

現在、予約が取りづらいという状況も出てきておりますが、これはなぜそうかといえますと、生野区内にバスが4台しか運行しておりません。ですから、4台で予約が重なってしまって、なかなか予約を取りづらいということで、今日もメトロの方と話しておりましたが、生野区内にもう一台追加するという話をいただいておりますので、5台が運行することによって、若干また増えるんじゃないかと思って、今現在、頭打ちです。数字が変わらない。なぜかという、それ以上運行ができないからですね、満タン状態だということです。あともう一台増えると、その中で平野区と生野区と、そして、今年から北区と福島区が新たに社会実験としてなっている。あくまでこれは実験なので、これが永久的になっていくかという、決まってはおりません。だけど、いずれは、こうして2年間続けて、それだけの成果が出るように、使用者が増えるということが社会実験上証明されれば、3年目に向けて実験を続けて、やがては恒久化していくことに向けての運動を続けるということ。

これはタクシー業界さんの死活問題になりますので、タクシー業界は猛烈に反対してきます。自分たちの生活問題、死活問題ですから。タクシー業界はドアツードアですね。だけど、オンデマンドバスは決められたエリアしか走れませんか、生野区内しか走れませんかよということで、限定されているんですね。あくまで限定というのは、タクシー業界の既得権益を犯していない条件と相まっているわけですから、そういうところが、こちらの要望と向こうの要望が相入れないところはたくさんあります。それはお互いに譲り合うことによって現在進めているというところですから、何とか続けられるようにということで私たちは努力しておりますので、その点、ご理解いただければと思います。

○三木議長

ありがとうございました。

和田さん、何かございましたら。

○和田様

和田でございます。

私、いつも広報いくのを楽しみに拝見しております。いろいろな団体の活動等も報告いただいて、この団体はこんな活動してるんやなというのがよく分かって、今月号は青指さんと青福さんの活動がありまして、活動報告、皆さんによく分かっていただけるんじゃないかなと思っています。

それで、広報いくのには、非常に重要な情報がたくさんあると思っています。ウェブで見れるのも分かっているんですけど、見に行くのではなくて、これを何とか

うまく発信できる、先ほどから何人かの方がSNSで発信って言われてましたけれども、見に行かないと見れないんじゃないかと、発信して情報を区民の方みんなが知れるような仕組みがあれば、もっともっとうまく広報いくのが活用できるんじゃないかなというふうに考えています。具体的にはよう示さないんですけど、そういう発信ができればすごくいいのになというふうに私は思っています。

○三木議長

ありがとうございました。

伊藤様、何かございましたら。

○伊藤様

東中川の伊藤でございます。

皆さん、本当にいろいろな観点から、いろいろな思いでお話しされたかと思えます。ちょっと余談ですけども、ある日、小学校の先生から、学校に来てない子どもがいてるねん、今そういう時代なんだなっていうことを痛感しております。皆さんのいろいろなご意見で、こういう子どもたちがいないようになったらいいなと思っております。これからも建設的なご意見等々をいただけたらなと思っております。今日は本当にありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

皆さん、長時間にわたりまして、本日も非常に貴重なご意見をありがとうございました。地域活動をされておられる立場から、またNPOの活動をされておられる立場、民間の事業としての視点から、本当に様々な立場、視点から意義のあるご意見をいただけたと思っております。本当にお一人お一人と対話をさせていただきたいぐらいの、本当にうれしく、ありがたく、感謝をしております。

中でもいくつか区役所に対して、本当は全部お答えしなければいけません、何点かお聞きいただけたところで言うと、塚本さんの、オンデマンドバスで高齢者の方の乗り方ですね、ご理解していただくための取組で区役所の関わりはということで、山口区長のときから、シニアスマートシティを区役所は進めるということで表明をしております、中でもやはり一番大きいテーマは、オンデマンドバスの乗り方をスマホで使えるようにしていただくということで、ですので、地域の会館であるとか、いろいろな場所で教えていただける方がおられて、高齢者を含め地域の方に集まっていただいて、そういうのをお伝えいただくという機会の取組をしております、これからも積極的に進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

それから、藪本委員が先般の台風のときの自主避難のお話で、以前は各小学校に避難所を設置しておりましたけども、今はコロナ感染拡大防止の観点から、集まっていただくことのほうがリスクが大きいので、できるだけ在宅避難を推奨するというので、ただ、それぞれのご事情で避難所に行きたいという方も当然おられますので、それに際しては、区役所で感染防止対策を十分にした上で来ていただくとい

う形にしておるわけでございますけども、おっしゃっていただきましたように、その移動をオンデマンドバスの活用でできたらと。本来、オンデマンドバスというのは、そういうふうに住民の方々のアイデアで、乗るほうを使い方を考えて、それに対応するというのが本来のオンデマンドバスの一番大きい意義であるというふうに、私もそう思っておりますし、メトロさんのほうもそういうふうに認識をしておられます。ですから、本当はそういう使い方ができたらいいわけなんですけど、今、多田会長もおっしゃっていただきましたように、ちょっと台数の不足もあり、あとAIがまだそこまで進化し切っていないというところがあるので、これからそこら辺が進んでいけば、そういう使い方ができるようになってくるのではないかと、ぜひともそういう使い方ができるようになってほしいなと思っております。

それから、橋野委員が、リノベーションの前に空き家の調査をということで、まさにおっしゃるとおりでございます。今年、空き家活用株式会社と連携をしまして、空き家の調査を、空き家活用株式会社は、どういうポイントで見たらそこが空き家かどうかというチェックができるかというノウハウを持っておりますので、それで空き家の状態、おうちの状態の調査ですね、これをやっていって、もちろん危険となる前に対策を打っていくということも含めて、空き家の活用と、あと危険な状態にならない前に何とかするというのを進めていきたいと思っております。

ほかにも本当に貴重なご意見をたくさんいただきまして、ぜひいただいたご意見をこれからの区政運営に反映させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。本日は長時間、本当にありがとうございました。

○三木議長

ありがとうございました。

本日は、生野区将来ビジョン等について、委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参画する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地域の皆様方に本日の会議の様子をお伝えしていただきたいと思っております。

それでは最後に、事務局から連絡事項があるようですので、お願いいたします。

○杉本区政推進担当課長

委員の方をはじめ、皆様お疲れさまでございました。

次回の区政会議の開催につきまして、ご連絡申し上げます。

今回は、来年3月に第三回の全体会の開催を予定してございます。その際には、来年度の区の実行計画内容の詳細と、併せまして、本日素案としてお示ししております生野区将来ビジョンや地域福祉ビジョンの最終の形をお示ししたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局からの連絡事項は以上となります。

○三木議長

ただいま事務局から連絡がありましたように、来年3月に区政会議の開催が予定されておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、これにて本日の区政会議全体会を終了いたします。委員の皆様、大変

お疲れさまでした。